

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 4 月 26 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370136

研究課題名(和文) 18世紀前半オランダ絵画コレクションの受容史的研究：「オランダ性」をめぐる考察

研究課題名(英文) The "Dutchness" of Dutch Art: A Study on Collections of Dutch Painting in the First Half of the Eighteenth Century

研究代表者

青野 純子 (Aono, Junko)

九州大学・基幹教育院・准教授

研究者番号：20620462

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：オランダの美術館・資料館・図書館における絵画作品・資料調査に基づき、18世紀前半のコレクションにおける17世紀オランダ風俗画の受容について考察を進めた。その結果、18世紀に人気を博した17世紀風俗画の題材選択の問題、そして、絵画市場における特定の画家の作品の価格の高騰の問題を、コレクターの蒐集活動の分析を通して、複数の事例研究の形で明らかにすることができた。研究成果は、国外の国際シンポジウム、国内の研究会で口頭発表したうえで、国際学術雑誌(英語)、単著(英語)、共著図書(日本語)にその成果を公表した。

研究成果の概要(英文)：Grounded in close analysis of genre paintings and employing numerous primary sources - including archival documents, sales catalogues, and literature on art -, several case studies, focused on the collecting activities of affluent art collectors, elucidate how and why certain types of 17th-century genre paintings became favored in the 18th-century art market. The result was presented in several lectures at national and international conferences and published as articles in scientific journals and books.

研究分野：西洋美術史

キーワード：西洋美術史 オランダ 絵画 コレクション 17世紀 18世紀 絵画市場

1. 研究開始当初の背景

近年のオランダ美術史研究において、画家レンブラントやフェルメールを輩出した17世紀最盛期の美術のみを重視する立場は見直され、かつては衰退期として一蹴された17世紀末以降の芸術が様々な側面から再評価されてきた。その結果、18世紀前半は17世紀オランダ美術を初めて受容し、栄光の過去の遺産として歴史化・規範化した時代であることが明らかになってきた。なかでも、筆者(申請者)は、1680-1750年の風俗画の全体像の再評価に取り組み、最盛期のオランダ絵画から「失われた」特質ではなく、18世紀の画家が能動的に「継承し、改変した」側面に注目し、それらを時代固有の芸術的文脈において再考してきた。つまり、これまでの筆者の研究は、制作者である18世紀の画家が17世紀絵画という「黄金時代」の遺産を継承した点に焦点を当ててきたといえる。そこで本研究では、絵画の購入者・鑑賞者である18世紀のコレクターに着目し、彼らによる17世紀絵画の受容を考察の対象とする。

2. 研究の目的

本研究は、18世紀前半を、17世紀盛期オランダ美術を初めて意識的に「受容」した時代、最盛期には語られなかったその特質を定義していく時代ととらえ、18世紀前半のコレクターの蒐集活動、そしてそのコレクションを分析することで、彼らの考える17世紀オランダ絵画の「オランダ性」を浮き彫りにする。これは、今日の我々の17世紀オランダ美術(史)観につながる原点への洞察を深めるだけでなく、イタリアなど他のヨーロッパ諸国の美術との差異を明らかにし、初期近代の西洋美術を理解する新たな視点を与えるであろう。

3. 研究の方法

上記の目的を達成するために、研究開始当初、研究対象として3つの区分を掲げた。2つのケーススタディによる分析と、その理論的土台となる考察である。

- (1)コレクターの好む絵画ジャンルの考察
- (2)コレクターの評価する画家に関する考察
- (3)コレクターの蒐集活動と絵画評価に関する同時代の文献の解読

研究調査を実施する過程において、(1)と(2)に関しては、より具体的な分析のために対象を絞り、また相互に関連させてより深い考察を行うために、下記のような形で、18世紀前半のコレクターの蒐集活動の研究に取り組んだ。オランダでの海外調査を合計3回実施し、現地では専門家たちと相談を重ねて効果的に調査を進めることが可能となった。

- (1)18世紀コレクターの好む17世紀風俗画の題材をめぐる問題
- (2)18世紀パリの絵画市場で人気を博した17世紀オランダ画家・絵画をめぐる問題
- (3)18世紀コレクションにおける17世紀オランダ絵画の評価をめぐる問題

4. 研究成果

上記の(1)-(3)のそれぞれの研究成果を、国際シンポジウムや国内の研究会での講演として発表し、さらに、国際的な学術雑誌(英語)、単著図書(英語、下記の図書④)、共著図書(日本語)など、複数の論文・図書の形で出版した。この(1)-(3)の研究成果について、下記の(1)-(3)として述べ、その後、(4)として「研究成果の国内外における位置づけとインパクト」、そして(5)として「新たな研究課題の発掘」に関して述べる(以下、「5. 主な発表論文等」でリストにした論文を「5-論文x」として記す)。

- (1) 18世紀コレクターの好む17世紀風俗画の題材をめぐる問題:18世紀において17世紀オランダ風俗画の特定の題材が人気を博していた事実とその理由が、風俗画題材の選択をめぐる事例研究を通して明らかになった。例えば、17世紀から18世紀の風俗画に継承された音楽の演奏という題材(5-図書③)、新生児の訪問という題材(5-雑誌④)、「蠟燭画」(夜景図)(5-雑誌①)などの分析を行った。
- (2) 18世紀パリの絵画市場で人気を博した17世紀オランダ画家・絵画をめぐる問題:18世紀半ばのフランス、パリの絵画市場において、17世紀のオランダ画家アドリアン・ファン・オスターデの農民画(参考図版1)が人気を得ていく一例が確認され、その理由に関して、競売目録や画家列伝など様々な一次資料をもとに考察を行った。その結果、18世紀フランスの画商がファン・オスターデの農民画をオランダで買い付け、パリの絵画市場において「オランダらしい」素朴な題材の絵画として売り出すという市場戦略の一端が明らかとなった(5-雑誌⑦)。

参考図版1:アドリアン・ファン・オスターデ《踊る農民》、1660年、油彩、板、42.5 x 57.2 cm、個人蔵。



- (3) 18世紀コレクションにおける17世紀オランダ絵画の評価をめぐる問題：18世紀オランダ絵画、画家、コレクション、コレクター、絵画市場に関する同時代の文献・記述を分析し、その結果を(1)と(2)の考察にそれぞれ用いて、事例を裏付け、また議論を豊かなものにするのが可能となった。また、18世紀における17世紀オランダ絵画の評価、さらに17-18世紀絵画市場と競売システム全般に関する二次文献も収集し、読み進めることで、こうしたテーマに関して考察を深め、論文等を発表することができた(5-雑誌②、③、⑤、⑥)。

また、18世紀における17世紀オランダ絵画の「オランダ性」の評価を考察するなかで、17世紀オランダ絵画における異国文化、なかでも中国文化の影響について研究プロジェクトを進めるユトレヒト大学のテイス・ウェストステイン教授との交流を深めた。その結果、九州大学大学院文学研究科にてウェストステイン教授を招待し、国際講演会(英語)を開催することができ、オランダ絵画における異国性とオランダ性について考察する機会を得た。

- (4) 研究成果の国内外における位置づけとインパクト：2015年にAmsterdam University Pressより1680-1750年のオランダ風俗画を再評価した単著*Confronting the Golden Age*(英語、5-図書④)を出版したが、その後、この単著を評価する書評が、オランダの新聞書評欄(NRC-Handelsblad, 2015.8.7)、および複数の国際的な学術雑誌(*The Burlington Magazine*, 2015.9; *HNA Review of Books*, 2016; *Renaissance Quarterly*, 69,)に掲載され、1680年以降のオランダ絵画の研究がかつてなく注目されたことが明らかになった。またその後、2016年にはドイツ、オランダで開催された17世紀オランダ風俗画をめぐる国際シンポジウム(5-口頭発表①、④)において、筆者は17世紀末以降の風俗画に関して講演(招待)を行い、また2016年に出版された17世紀オランダ絵画の研究史を扱う論文集(5-論文③)では、17世紀末以降のオランダ絵画を扱う論文を掲載する機会を得た。かつては、17世紀絵画が議論されるシンポジウムや論文集において17世紀末以降の絵画の研究に時間や頁が割かれることはほとんどなかったものであり、それを鑑みると、今日徐々に、17世紀末から18世紀初頭の風俗画が一つの研究対象として認識され、再評価されつつあることがうかがわれる。今後も18世紀前半のオランダ絵画研究を継続していくことで、17世紀オランダ絵画を偏重するオランダ美術史の観

点を見直し、17世紀末以降の芸術を歴史的コンテキストから再評価するという新たな研究動向に貢献していくことができるだろう。

- (5) 新たな(継続)研究課題の発掘：上記のように幅広く研究を進めるなかで、(2)のテーマに関連し、「18世紀ヨーロッパにおける17世紀オランダ絵画趣味と蒐集」の問題が新たな研究課題として浮上してきた。とりわけ、18世紀中頃のパリにおけるオランダ絵画受容は注目に値する。当時、パリの富裕な市民コレクターがヨーロッパの絵画作品を国別(ドイツ、フランス、イタリア、イギリス等)に分類し、その特徴を識別し、蒐集するという傾向が見られ、「ヨーロッパ絵画のなかのオランダ絵画」という位置付けが確立していく時期でもあった。同時に、18世紀にはオランダ画家の列伝等、オランダ絵画に関わる様々な書籍がフランス語で出版され、ヨーロッパにおけるオランダ絵画への関心が高まる頃でもあった。なかでも、(2)で調査したように、パリの絵画市場において人気を博した17世紀オランダ画家のアドリアン・ファン・オスターデの農民画(参考図版1)の事例は興味深く、農民画の人気の理由をさらに探究していくことで、18世紀に形成されていく「オランダ絵画のオランダらしさ」の考察にもつながっていくと考えられる。今後の研究において、このテーマを発展させ、継承していく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

- ① Junko Aono, "In the Glow of Candlelight: A Study of Nicolaas Verkolje's Approach to the Art of Godefridus Schalcken," *Wallraf-Richartz-Jahrbuch*, vol. 77, 2016, pp. 251-264 (査読有)。
- ② 青野純子、「エリック・ヤン・スライテル『黄金時代における美術市場での価格決定をめぐる序論』、『西洋美術研究』、査読無、第19号、2016年、「美術市場と画商」特集、109-112頁。
- ③ Junko Aono, "Out of the Shadow of the Golden Age: Recent Scholarly Developments Concerning Dutch Painting of the Late Seventeenth and Early Eighteenth Centuries," in: *The Ashgate Research Companion to Dutch Art of the Seventeenth Century*, edited by W. Franits, 2016, pp. 286-301 (査読

無)。

- ④ 青野純子、「ハブリエル・メツー《新生児の訪問》をめぐる一考察」、『美術フォーラム 21』、査読無、第 33 号、新潮社、2016 年、53-58 頁。
- ⑤ Junko Aono, "Adriaan Waiboer, *Gabriel Metsu (1629-1667): Life and Work - Catalogue Raisonné*, New Haven and London, Yale University Press, 2012. 408 pp. 78 colour illus., 170 b/w illus.," (book review), *Oud Holland*, vol. 129, Issue 1, 2016, pp. 37-46 (査読有)。
- ⑥ 青野純子、「黄金時代の黄昏のなかで：18 世紀初頭のオランダ風俗画の挑戦」、『芸術新潮』、査読無、2 月号、2016 年、88-92 頁。
- ⑦ 青野純子、「市場戦略としての 17 世紀オランダ農民画礼賛—1748 年パリの競売目録の記載を手がかりに—」、『ヨーロッパ研究』、査読無、10 号、2015 年、75-97 頁。

[学会発表] (計 5 件)

- ① Junko Aono, "Praise and Price: Peasant Pieces by Adriaan van Ostade in the Eighteenth-Century Art Market," International Symposium: *Genre Painting from the Northern and Southern Netherlands, 16th-18th Century*, December 16, 2016, The Hague, The Netherlands.
- ② 青野純子、「18 世紀初頭のオランダ風俗画：近年の再評価をめぐる考察」、九州大学芸術学研究会、2016 年 8 月 3 日、九州大学、福岡県福岡市。
- ③ 青野純子、「黄金時代の遺産：1680-1750 年のオランダ風俗画をめぐる考察」、ネーデルラント美術研究会、2016 年 7 月 23 日、慶應義塾大学、東京都港区。
- ④ Junko Aono, "In the Glow of Candlelight - A Note on Nicolaas Verkolje's Approach to the Art of Godefridus Schalcken," International Conference: *Godefridus Schalcken-Fascination and Impact*, January 23, 2016, Cologne, Germany.
- ⑤ Junko Aono, "Het belang van onderzoek naar de Nederlandse genreschilderkunst na 1680" (「1680 年以降のオランダ風俗画研究の重要性」), Symposium-Bookpresentation:

Confronting the Golden Age (単著出版記念ミニ・シンポジウム), March 10, 2015, Amsterdam, The Netherlands.

[図書] (計 4 件)

- ① 尾崎彰宏、今井澄子、寺門臨太郎、廣川暁生、青野純子、ありな書房、『ネーデルラント美術の光輝—ロベール・カンパンから、レンブラント、そしてヘリット・ダウへ』、2017 年、共著、総頁 242 頁 (論文：青野純子「ヘリット・ダウ《若い母親》—18 世紀オランダの絵画市場と絵画の価値」、175-208、229-236 頁)。
- ② Arthur K. Wheelock Jr. (ed), Junko Aono, *The Leiden Collection Catalogue*, 2017, Online Catalogue (Junko Aono: 11 catalogue entries, including "Courtesan Counting Money" (JM-101) and "Woman Holding a Dog in a Landscape" (JM-100) by Jan van Mieris) (共著、オンラインカタログ。下記の「その他」のウェブサイトを参照)。
- ③ 元木幸一、今井澄子、木川弘美、寺門臨太郎、尾崎彰宏、廣川暁生、青野純子、ありな書房『ネーデルラント美術の魅力—ヤン・ファン・エイクからフェルメールへ』、2015 年、共著、総頁 318 頁 (論文：青野純子「ヨハネス・フェルメール《音楽の稽古》—ハブリエル・メツーとの芸術的対話をめぐる考察」、235-268、306-312 頁)。
- ④ Junko Aono, Amsterdam University Press, *Confronting the Golden Age - Imitation and Innovation in Dutch Genre Painting 1680-1750*, 2015 (単著、総頁 230 頁)。

[その他]

ホームページ等

- ① 九州大学の個人ページ
<http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K005212/index.html>
- ② The Leiden Collection Catalogue のオンラインカタログのウェブサイト：
<http://www.theleidencollection.com>
青野執筆部分のページ：
http://www.theleidencollection.com/entry_author/junko-aono/

6. 研究組織

(1) 研究代表者

青野 純子 (Aono, Junko)

九州大学・基幹教育院・人文社会科学部門・准教授

研究者番号：20620462